

妊娠中のパートナーから暴力と 幼少期の不適切な被養育体験は 産後の赤ちゃんへの不適切な養育を予測するか？

キタ 幸子¹⁾²⁾, 戸部浩美¹⁾²⁾, 梅下かおり¹⁾²⁾, 林真由¹⁾²⁾, 上別府圭子¹⁾²⁾

1) 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 家族看護学分野

2) 東京大学大学院医学系研究科グローバルナーシングリサーチセンター

パートナーからの暴力(IPV)と幼少期の不適切な被養育体験(CM)

・パートナーからの暴力(Intimate partner violence:IPV)

親しいパートナーを暴力によりコントロールする意図的な行為

身体的暴力、精神的暴力、性的暴力 など (WHO, 2013)

・幼少期の不適切な被養育体験(Child maltreatment:CM)

(WHO, 2020)

親などの**養育者から体罰や心理的虐待、ネグレクト**などの虐待的育児を受けて育った体験

・妊娠中のIPV:約**15%** (Kitaら, 2013)

・幼少期のCM:約**30%** (WHO, 2020)

(Kita et al., 2006; Kita et al., 2020; Kita et al., 2019; , 2014; Savage et al., 2019)

妊婦の暴力被害体験は
周産期メンタルヘルス悪化・子ども虐待のハイリスク要因

暴力の多重被害(Poly-victimization)

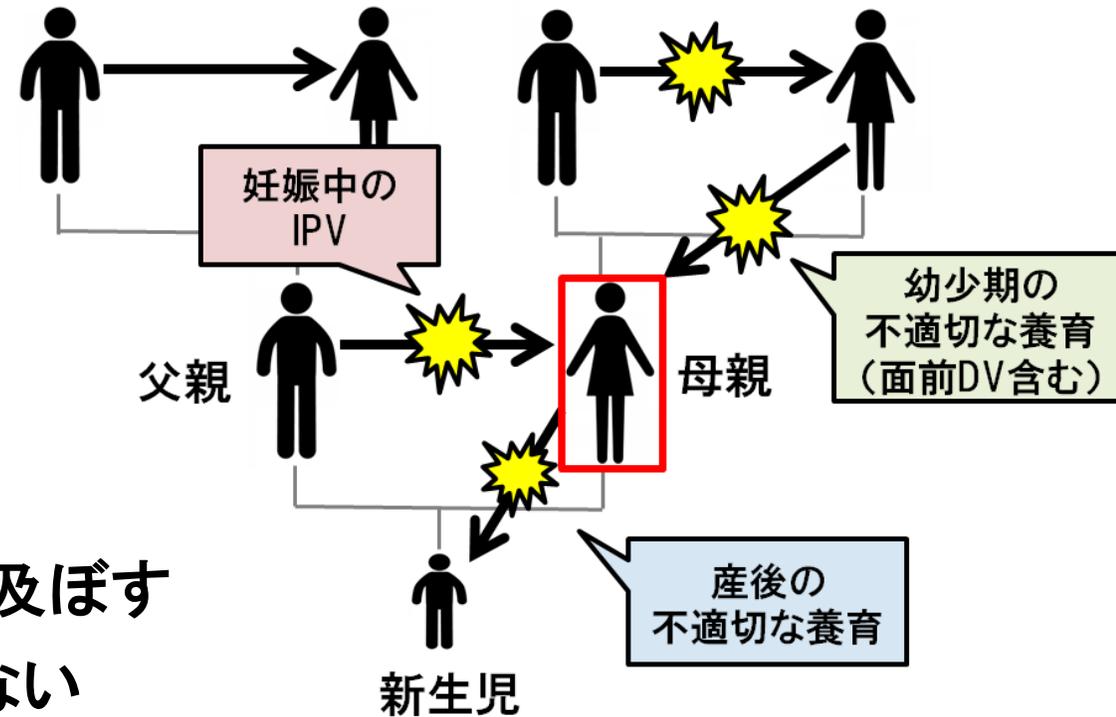
- ・暴力はしばしば連鎖しることがわかっている
= **暴力の多重被害(Poly-victimization)**

(Chan et al., 2017)

- ・妊娠中のIPVと幼少期のCMの重なる指摘
幼少期のCMは1.8-3.9倍、IPV被害のリスク↑

(Abajobir et al., 2017)

- ・妊婦のIPVと幼少期のCMの**暴力の多重被害**が及ぼす
産後の育児行動への影響は明らかになっていない



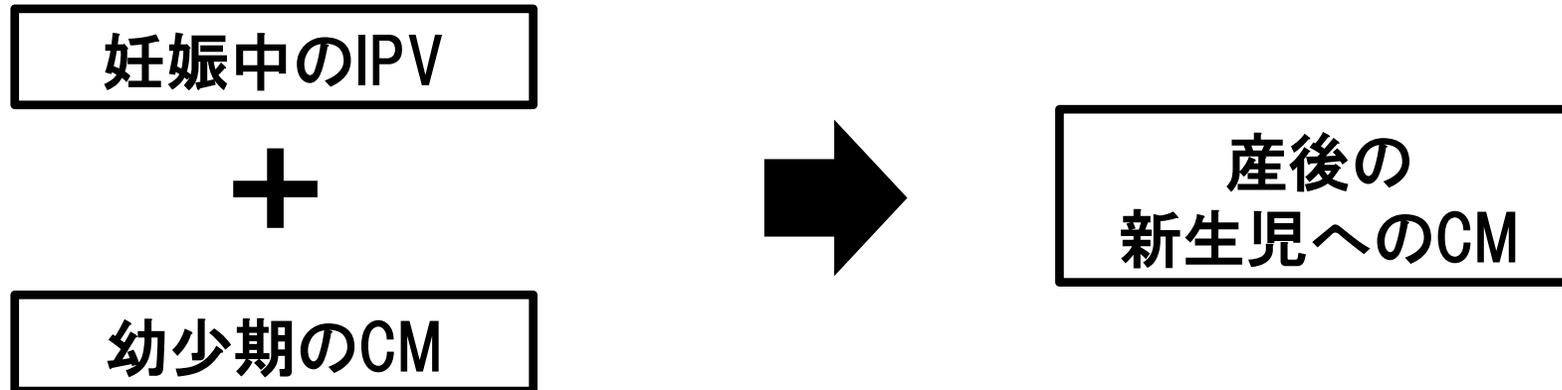
妊婦の**暴力の多重被害**は、単体の暴力経験比べて、
母親の新生児へのCMのリスクを高くするのか



周産期に起こる暴力の連鎖の実態の解明

研究の目的・意義

妊娠中のIPVと幼少期のCMの**暴力の多重被害**が与える
産後の**母親の新生児へCM**への影響を明らかにする



周産期に起こる暴力の連鎖の
予防・終結に向けた支援方法の示唆

研究デザイン・期間・対象者・解析・倫理的配慮

・研究デザイン

オンラインの自記式質問紙を用いた
妊娠後期から産後1か月における縦断観察研究



・期間・場所

2016年7月～2017年9月、都内産科施設2か所

・対象者

妊娠後期(28週以降)で妊婦健診に受診した妊婦



・解析

多重ロジスティック回帰分析

・東京大学医学系研究科・医学部倫理審査委員会の承認
(承認番号: 11223-1)

調査項目：妊娠中のIPVと幼少期のCM

<p>妊娠中のIPV</p>	<p>女性に対する暴力スクリーニング尺度 (片岡, 2005) (Violence Against Women Screen:VAWS) -IPVの割合と程度を測定 -1因子構造 身体的暴力・精神的暴力・性的暴力の内容を含む -7項目、3件法:「全くない(1)」~「よくある(3)」 -9点以上を妊娠中のIPVありと判断 -日本人妊婦で信頼性・妥当性が確認</p>
<p>幼少期のCM</p>	<p>オリジナル4項目:18歳までのCM体験の有無 ①親から身体的に傷つけられる体験(なぐる、けるなど) ②親から精神的に傷つけられる体験(どなる、侮辱するなど) ③身近な人から性的な言動や行為を強要された体験 ④両親の間でおこった暴力(なぐる、けるなど)を見た体験 -4件法:「まったくなかった(1)」~「よくあった(4)」 -「1, 2回あった(2)」以上をCM体験ありと判断</p>

調査項目：産後の新生児へのCM

新生児へのCM

オリジナル14項目

-厚生労働省の児童虐待の定義と分類を参考に作成

-14項目、5件法

(厚生労働省, 2017; Kita et al., 2020)

「全くなかった(0)」～「ほぼ毎日(4)」

-**身体的虐待(6項目)**

「赤ちゃんを平手で叩いた」

「赤ちゃんに物を投げた」など

-**精神的虐待(5項目)**

「赤ちゃんに暴言をはいた」

「赤ちゃんをおどした」など

-**ネグレクト(3項目)**

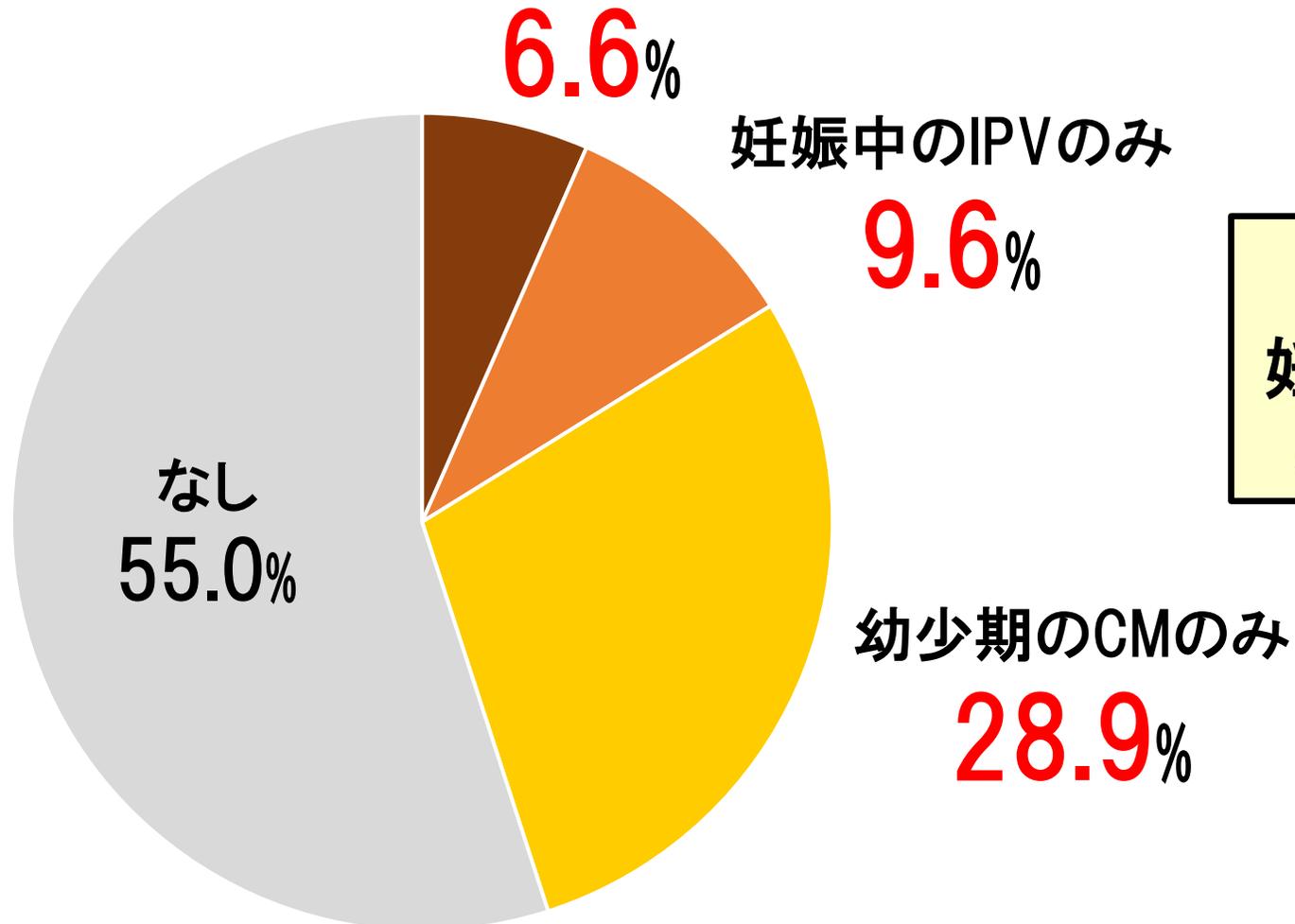
「赤ちゃんの世話を長い間しなかった」

「赤ちゃんの世話を長い間しなかった」など

-「1回あった(1)」以上を新生児へのCMありと判断

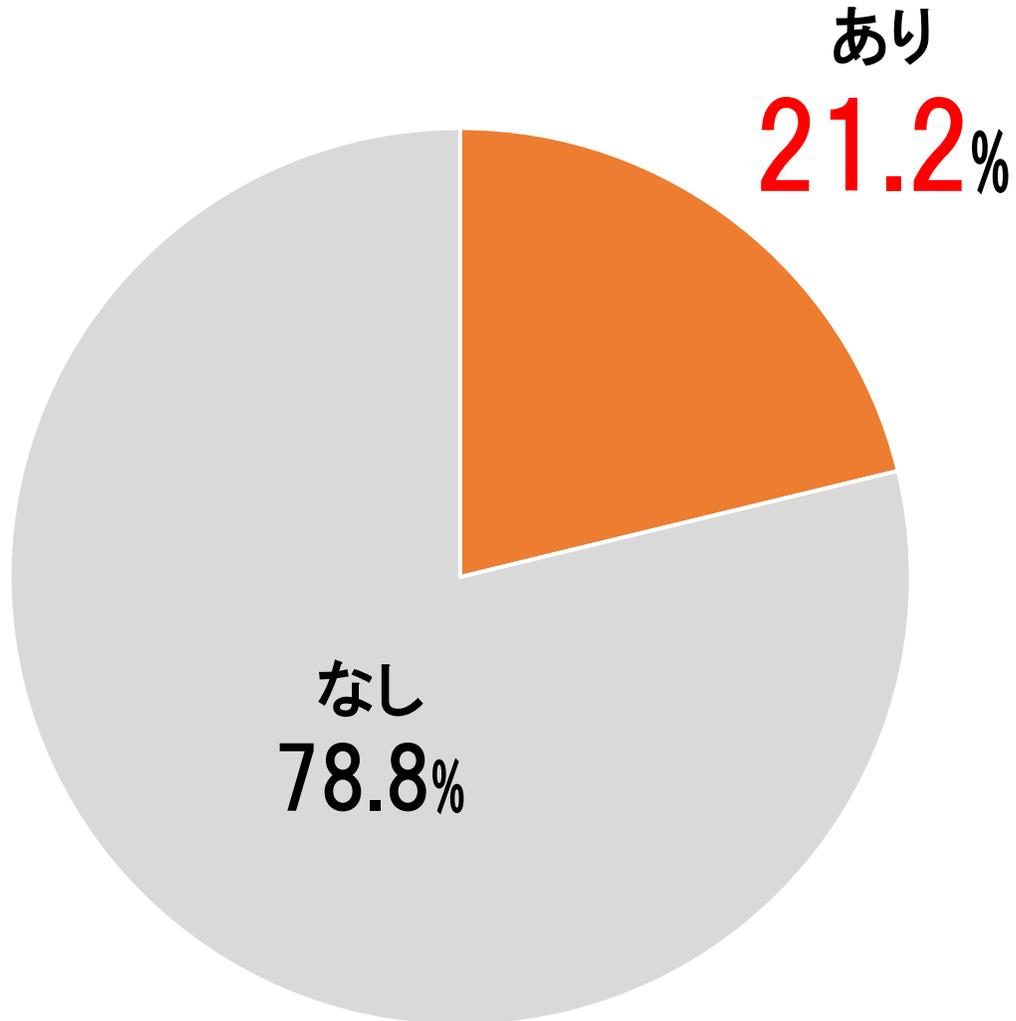
妊婦の暴力被害の体験

妊娠中のIPV＋幼少期のCM
暴力の多重被害



妊婦の約7%が
妊娠中のIPVと幼少期のCMの
暴力の多重被害の体験あり

産後の新生児へのCM



- ・精神的虐待: 18.9%
- ・ネグレクト: 3.2%
- ・身体的虐待: 0.8%

約20%の産後1か月の母親が
新生児へのCMを
1回以上行つたと回答

暴力の多重被害が及ぼす新生児へのCMへの影響

	新生児へのCM		
	AOR	95%CI	<i>p</i>
暴力被害なし		Reference	
幼少期のCMのみ	1.75	1.04-2.93	.03
妊娠中のIPVのみ	3.43	1.76-6.72	<.001
妊娠中のIPV + 幼少期のCM	5.17	2.39-11.20	<.001

AOR = 調整済みオッズ比, 95% CI = 95%信頼区間, 出産歴・母親の就労の有無・参加合併症の有無・精神疾患既往の有無・パートナーの年齢を調整変数に入れた多重ロジスティック回帰分析

幼少期のCMは1.8倍、妊娠中のIPVは3.4倍、
暴力の多重被害は**5.2**倍、新生児へのCMのリスクが高くなる

結論

- ・妊娠中のIPVと幼少期のCMの**暴力の多重被害**は
単体の暴力体験よりも、産後の**母親の新生児へCMのリスクを高くする**
- ・周産期に起こる暴力の連鎖の実態に関する日本初の報告
- ・周産期の暴力の連鎖・子ども虐待の予防に向けて
妊婦の単体の暴力被害だけでなく、**多重被害の経験を把握する必要性**
- ・暴力被害の経験がある妊婦に対して
妊娠初期からの十分な支援の必要性